

○任期(2020年7月1日～2022年6月30日)

氏 名	所 属 等
(台外委員)	
大西 利和	大阪府立大学大学院理学系研究科 教授
川端 弘治	広島大学宇宙科学センター 教授
清水 敏文	宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所 准教授
戸谷 友則	東京大学大学院理学系研究科 教授
山崎 典子	宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所 教授
米倉 覚則	茨城大学理学部附属宇宙科学教育研究センター 教授
渡邊 誠一郎	名古屋大学大学院環境学研究科 教授
(台内委員)	
麻生 洋一	重力波プロジェクト 准教授
小杉 城治	アルマプロジェクト 准教授
齋藤 正雄	研究連携主幹
満田 和久	技術主幹
(評価作業部会構成員※)	
渡部 潤一	副台長(総務担当)
井口 聖	副台長(企画担当)
大内 正己	科学研究部 教授
小林 秀行	水沢VLBI観測所 上席教授
立松 健一	野辺山宇宙電波観測所 教授
深川 美里	アルマプロジェクト 教授
宮崎 聡	先端技術センター 教授

※プロジェクト評価委員会規則第9条第2項第2号による
(会議開催の定足数には含まず、委員会における議決権は有さない)

2020.6.5 野上委員長からのメール

事務局による開票結果は下記の様になりました。この推薦投票の結果を↓
参考にして運営委員会で議論した結果、下記の方々を委員候補者として↓
推薦することといたしました。↓

↓

伊藤洋一↓ 前期委員

戸谷友則↓ 前期からの継続委員

秋山正幸↓

土居守↓

川端弘治、山田亨↓

↓ 今期からの委員

国立天文台への連絡のメールでは、上列から推薦の強い順で、↓
同列では推薦の強さは同じと付言します。↓

↓

国立天文台によるプロジェクト評価の実施状況

1. 外部評価

年度	評価の名称	評価報告書
	国立天文台プロジェクト評価（三年一巡重点評価）	*台外委員と台内委員が評価
2016 (H28)	・岡山天体物理観測所（2016/11/24～25： 於 岡山） ・先端技術センター（2016/12/16： 於 三鷹） ・天文データセンター（2016/12/19： 於 三鷹） ・天文情報センター（2017/1/23～24： 於 三鷹） ・ハワイ観測所（2017/3/3～8： 於 ハワイ）	国立天文台平成 28 年度プロジェクト 評価報告書：5 件†
2017 (H29)	・太陽観測科学プロジェクトおよび Solar-C 準備室 （2017/11/27、12/1： 於 三鷹） ・重力波プロジェクト推進室（2017/12/14： 於 三鷹、12/15： 於 神岡） ・天文シミュレーションプロジェクト（2017/12/22： 於 三鷹） ・JASMINE 検討室（2018/1/23～24： 於 三鷹） ・TMT 推進室（2018/2/21～23： 於 三鷹）	国立天文台平成 29 年度プロジェクト 評価報告書：5 件†
2018 (H30)	・チリ観測所（2018/11/14～15： 於 チリ、2019/3/7： 於 三鷹） ・水沢 VLBI 観測所（2019/1/7～8： 於 水沢、2019/6/5・10： TV 会議） ・理論研究部（2019/1/16： 於 三鷹） ・RISE 月惑星探査検討室（2019/1/28： 於 三鷹、2019/1/29： 於 水沢） ・野辺山宇宙電波観測所（2019/2/13～14： 於 野辺山）	国立天文台平成 30 年度プロジェクト 評価報告書：5 件 (英訳版作成中)
	国立天文台プロジェクト評価（国際外部評価）	*国内外の台外委員が評価
2019 (R1)*	・天文情報センター（2020/2/27～28： 於 三鷹）	2020 NAOJ PRC Review Report

† 日本語で作成された評価報告書は、台内の外国人スタッフ及び将来の国際外部評価等に向けて英訳版を作成した。
* 2019 年度は、アルマ望遠鏡の国際外部評価が日本を含む関係国において実施された。

国立天文台のCプロジェクト
（運用段階にあるもの）やセ
ンター、科学研究部を3年一
巡で評価する。

- 今期の初回（8月末）に前期の進め方で不手際へのお詫びの表明があった
- 今期のプロジェクト評価の進め方の案が示され、議論されている。

主要な変更点

各プロジェクトの外部評価委員会委員

前期：プロジェクト評価委員の中から数名が選出され、主導する形で評価に当たった（ようだ）。

今期の案：プロジェクト評価委員会が、外部評価委員会委員（とコーディネータ＝世話人）を選任し評価を委託

6. プロジェクト室等の評価に関するプロジェクト評価委員会への諮問事項と外部評価委員会

プロジェクト評価委員会への諮問は、3節に従って、運用フェーズにあるプロジェクト、センターおよび科学研究部の外部評価に関する事項である。

具体的には、国立天文台長は、評価対象となるプロジェクトあるいはセンター／科学研究部毎に、以下の項目をプロジェクト評価委員会に諮問し、妥当性を評価してもらう。
また必要に応じて、(キ)の評価委員の推薦を依頼する。

(ア) プロジェクト／センター／研究部それぞれの外部評価の実施時期

(イ) 外部評価の対象範囲

(ウ) 外部評価の対象期間

(エ) 外部評価の項目

(オ) 外部評価の視点、評価基準

(カ) 外部評価の方法

(キ) 外部評価委員会の委員の人数と人選

(ク) 外部評価コーディネータ（世話人）の人選

外部評価委員会は、評価作業部会とは異なる組織であり、国立天文台外の研究者あるいは職員からなる評価委員により構成する。評価委員には海外機関の研究者あるいは職員が複数含まれることが望ましい。プロジェクト評価委員会の外部委員が評価委員となることも可能である。

評価コーディネータは、国立天文台の研究者あるいは職員で構成され、外部評価の活動を支援する。プロジェクト評価委員会の内部委員もしくは作業部会員が評価コーディネータとなることも可能である。コーディネータの人数は複数でもよい。外部評価活動の中で、該当プロジェクトの範囲を超えて、国立天文台全体の活動に関する質問も想定されることから、コーディネータの中に、該当プロジェクトまたはセンター／研究部の担当執行部も加わるようにする。

なお、外部評価委員会開催や評価報告書の文書準備などの事務的支援は、国立天文台の評価支援室が行う。

7. 外部評価結果の取り扱い

外部評価委員会による外部評価報告書は評価終了後に、プロジェクト評価委員会に報告される。

外部評価結果に責任を持つのは外部評価委員会である。プロジェクト評価委員会は、外部評価報告書の内容や記述方法等について、必要に応じて改善のための提言を行うことができる。そのため、外部評価結果の報告時には、外部評価委員会委員もしくは評価コーディネータがプロジェクト評価委員会に出席し、意見交換を行う。提言は、外部評価委員会委員長に伝達され、その取り扱いは、外部評価委員会で議論していただく。

プロジェクト評価委員会への報告を経て最終化された外部評価報告書は公開される。

今期の案では、プロジェクトの評価を外部評価委員会に委ねる形になっていることから、コミュニティから選出された委員の声が直接届きにくい、という意見が出ている

一方で、委員が（自身があまり詳しくないプロジェクト等について）適任と思われる外部評価者を当てがえること、自身が評価委員として主体的に関わることも可能であること、報告書は公開されること等を総合すると、メリットとも考えられる。前頁の紫色の下線を振った部分がこの理解と整合していることが確認できれば、同意する方針。

10月の委員会で議論予定。ご意見あれば川端かプロジェクト評価委員までお願いします。